

未来貢献

校長だより 第4号

令和7年6月9日発行

長嶋茂雄さんから学ぶ ～一人ひとりが輝ける時代に向けて～

先週、長嶋茂雄さんが亡くなりました。命日となった6月3日以降、テレビのニュースでは多くの時間を割いて報道され、今もなお特別番組が組まれるなど、その反響の大きさが続いています。私でさえ、長嶋さんの現役選手時代の記憶はほとんどありません。監督を退かれてからもすでに20年以上が経っています。生徒の皆さんの中には、「名前だけは聞いたことがある」という人も多いのではないのでしょうか。しかし、連日の報道を目にして、「本当にすごい人だったんだな」と感じた人も多いことでしょう。スポーツ選手や芸能人など、これまでも多くの著名人が亡くなっていますが、ここまで大きく報じられた方は、他にいたでしょうか。少なくとも私の記憶の中では、最も大きな扱いを受けた人物のように思います。日本において「ミスター」といえば、やはり長嶋茂雄さんです。その圧倒的な存在感と人気は不動のものであり、まさに現代の日本社会において唯一無二の“スーパースター”だったと感じます。

では、なぜ長嶋さんは、これほどまでに日本人に愛され続けたのでしょうか――。

長嶋さんは、華やかで魅力的なプレーを通じて多くのファンを魅了し、“絵になる男”と称されていたと聞きます。ホームランを打つなどしてチームの勝利に貢献したときはもちろん、フルスイングの末に三振したときでさえ、その全力プレーにファンは歓声を送ったといいます。監督時代も、明るくユーモアあふれる言動で常に注目を集めました。そして晩年、病を患ったあとも、何度も球場に足を運び、選手たちを励まし続けました。ファンを大切に作る姿に、多くの人が勇気や元気をもらったのではないのでしょうか。こうした生き方が、世代や性別を超えて人々の心を打ち、「誰もが知っている」「みんなが笑顔になれる」存在として、長嶋さんを国民的スターへと押し上げたのだと思います。

今回の訃報を通じて、多くの人があらためてその偉大さを実感したことでしょう。長嶋さんが私たちに遺してくれたのは、華麗なプレーや輝かしい記録、数々の名言・迷言ではありません。どんなことにも全力で取り組む姿勢、人々を明るく照らす存在感、そして夢を追い続ける生き方こそが、私たちにとっての大きな“遺産”です。一人ひとりが目の前のことに真剣に取り組む、仲間を大切に、自分らしく輝くことができれば、きっと周囲に元気や希望を届けられるはずです。これもまた、「未来貢献」の一つのかたちではないのでしょうか。長嶋さんの生き方をヒントに、皆さんも日々の生活や学びの中で、自分自身の「輝き方」を見つけてほしいと思います。

